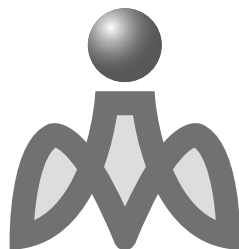


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和6年1月～3月実績〕
〔令和6年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 164企業

2. 調査対象期間

第4四半期 令和6年1月～3月期 「調査時点：令和6年3月1日」

3. 調 査 方 法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービ業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	1	1	3	2	7
韮 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 士 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	36	25	50	53	164

5. そ の 他

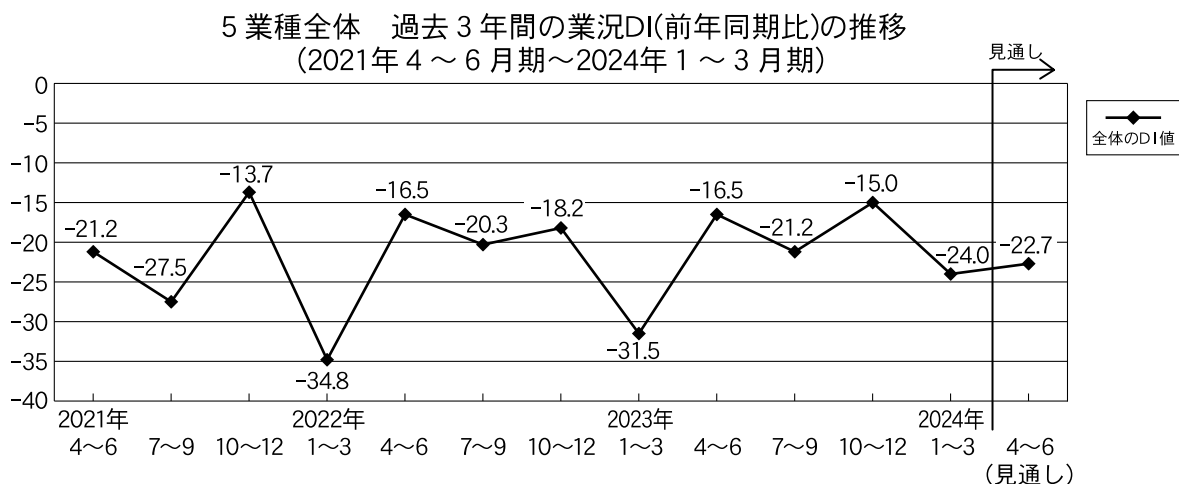
本報告書のDIとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

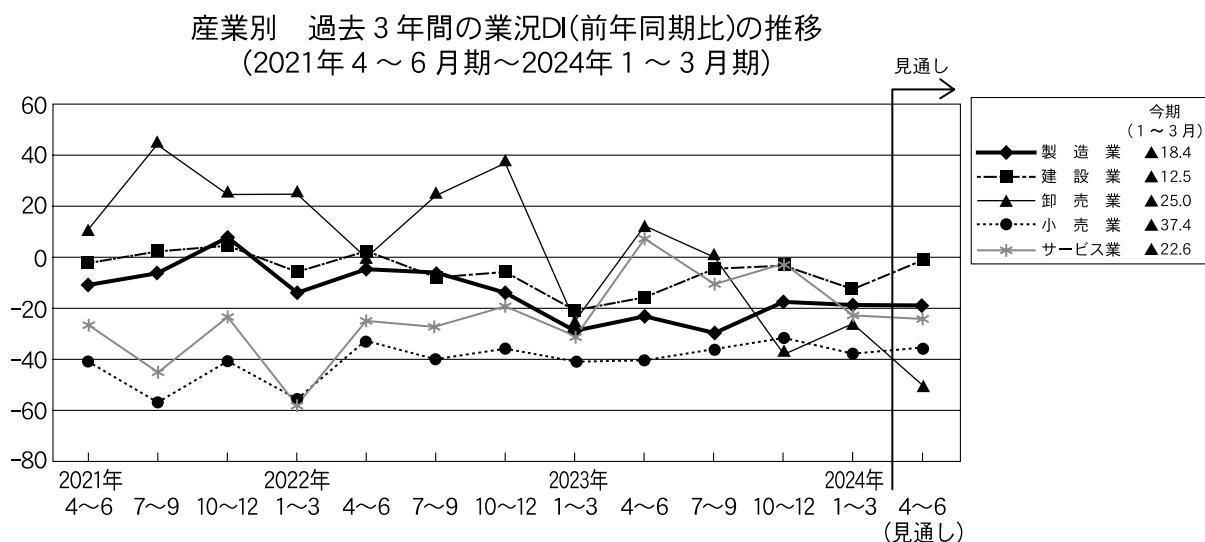
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲24.0と前期比で9.0ポイント悪化している。来期は▲22.7と僅かながら改善の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

卸売業のみが前期より改善し、それ以外の製造業、建設業、小売業、サービス業は悪化した。製造業は▲18.4で前期比▲1.3ポイント、建設業が▲12.5で前期比▲10.0ポイント、卸売業が▲25.0で前期比+12.5ポイント、小売業が▲37.4で前期比▲6.3ポイント、サービス業が▲22.6で前期比▲20.1ポイントであった。

来期は、製造業、卸売業、サービス業が悪化、建設業、小売業が改善の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象164企業に甲府・富士吉田地域等からの122企業を含めた286サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

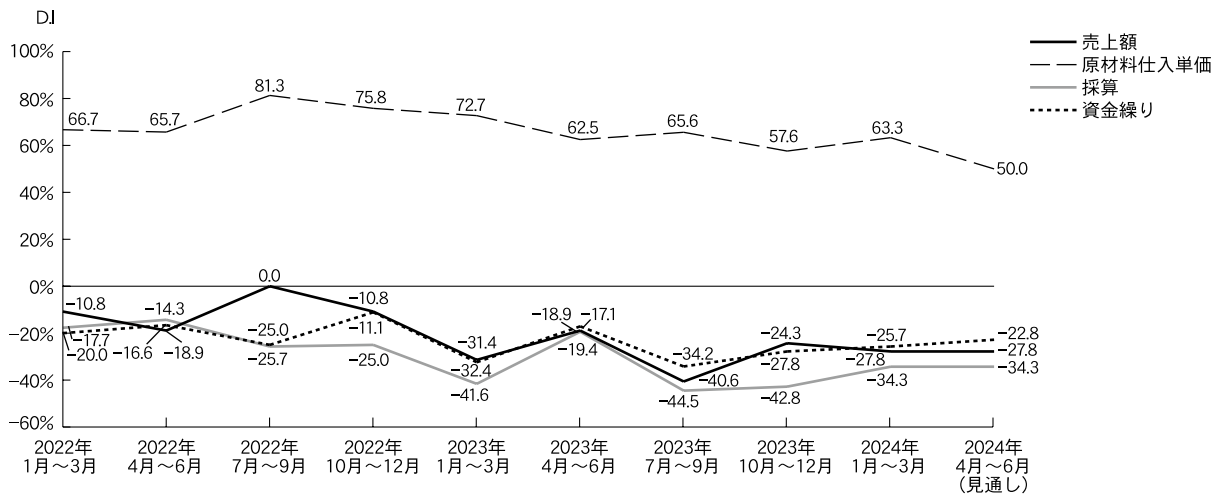
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲27.8と前期比で3.5ポイント悪化し、来期も▲27.8の見通し。原材料仕入単価D Iは、今期63.3と前期比で5.7ポイント上昇（悪化）したが、来期は50へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲34.3と前期比で8.5ポイント改善し、来期も▲34.3の見通し。資金繰りD Iは、今期▲25.7と前期比で2.1ポイント改善し、来期も▲22.8へ改善の見通しである。

今期は売上額D I、原材料仕入単価D Iが悪化した。採算D Iと資金繰りD Iが改善。来期は、売上額D Iと採算D Iとが今期同等、原材料仕入単価D Iと資金繰りD Iとが改善の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

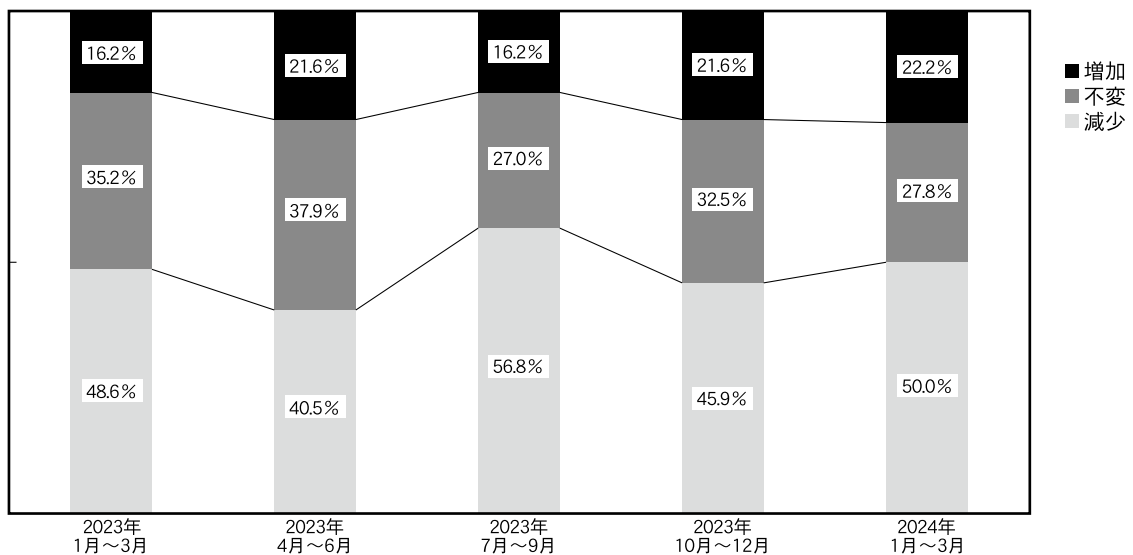
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数36社（前回37社）））

「増加」と答えた企業の割合は、22.2%（8社）で増加（回答企業数は変化なし）している。

「不変」は27.8%（10社）と減少（前期比▲2社）、

「減少」は50.0%（18社）と増加（前期比+1社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数35社）

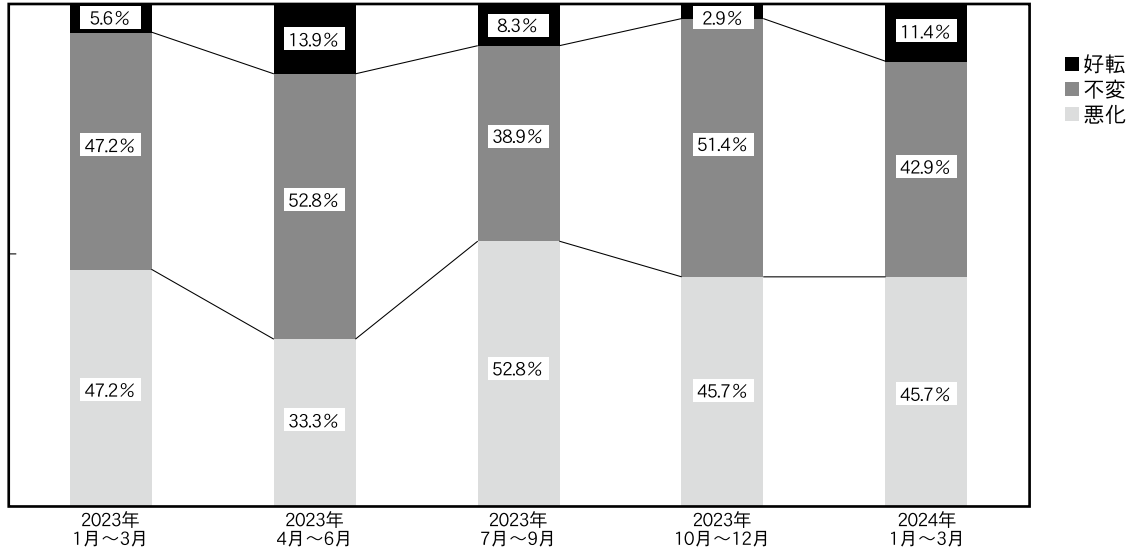
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、11.4%（4社）と増加（前期比+3社）している。

「不変」は42.9%（15社）に減少（前期比▲3社）、

「悪化」は45.7%（16社）で変化なし。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

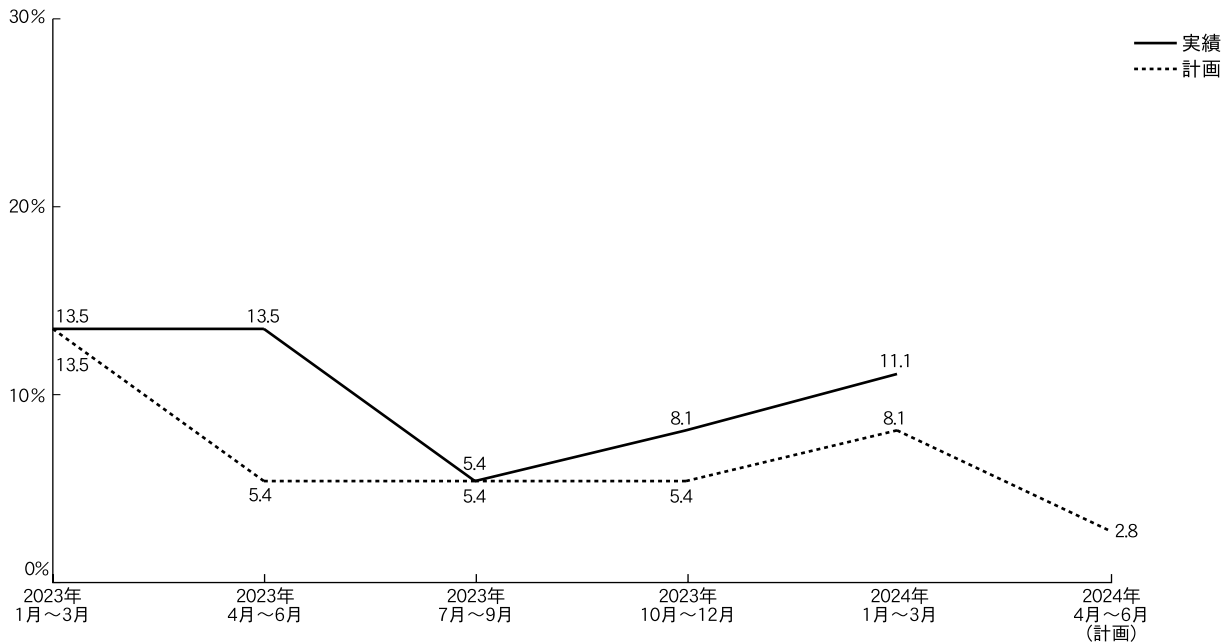


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数36社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は11.1%（4社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「車両・運搬具」「OA機器」が1件ずつであった。

来期の計画については、2.8%（1社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「生産設備」「車両・運搬具」が1件ずつである。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数33社）

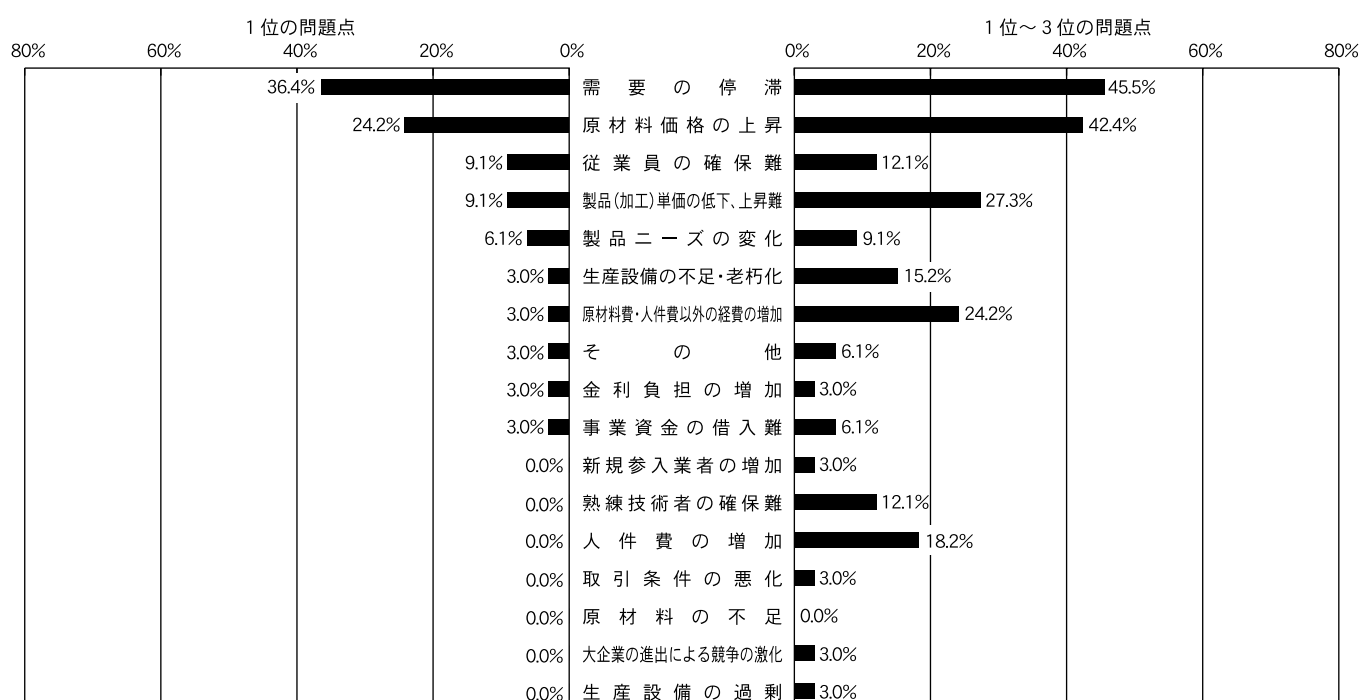
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の36.4%（12社）であり、2番目は「原材料価格の上昇」の24.2%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは「需要の停滞」の45.5%（15社）であり、2番目に多かったのは「原材料価格の上昇」の42.4%（14社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	13.9
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.8
印刷・同関連業	2	5.6
化学工業	1	2.8
プラスチック製品製造業	3	8.3
金属製品製造業	3	8.3
一般機械器具製造業	13	36.1
電気機械器具製造業	2	5.6
精密機械器具製造業	1	2.8
その他製造業	5	13.8
合計	36	100.0

従業員規模別

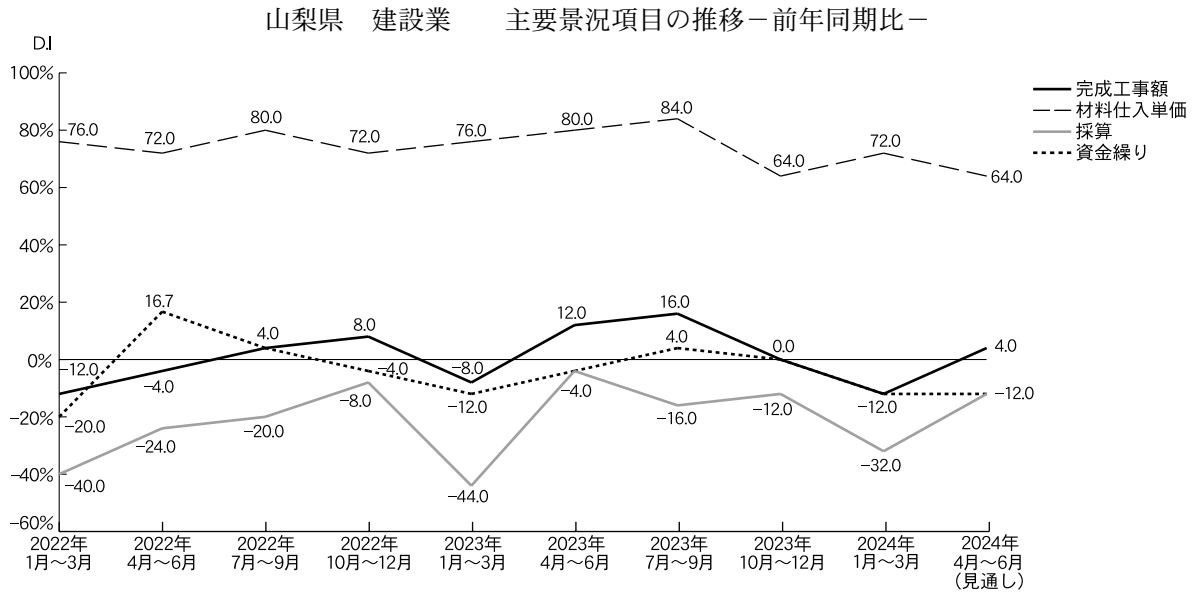
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	18	50.0	15	41.7
3人～5人以下	9	25.0	7	19.4
6人～10人以下	6	16.7	10	27.8
11人～20人以下	3	8.3	4	11.1
合計	36	100.0	36	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期▲12.0と前期比で12.0ポイント悪化したが、来期は4.0へ改善の見通し。材料仕入単価D Iも、今期72.0と前期比で8.0ポイント上昇（悪化）したが、来期は64.0へ下降（改善）の見通し。採算D Iも、今期▲32.0と前期比で20.0ポイント悪化したが、来期は▲12.0へ改善の見通しである。資金繰りD Iも、今期▲12.0と前期比で12.0ポイント悪化し、来期は▲12.0で変化なしの見通しである。

今期は全D Iが悪化となったが、来期は完成工事額D I、材料仕入単価D I、採算D Iが改善の見通し、資金繰りD Iも今期同等の見通しである。



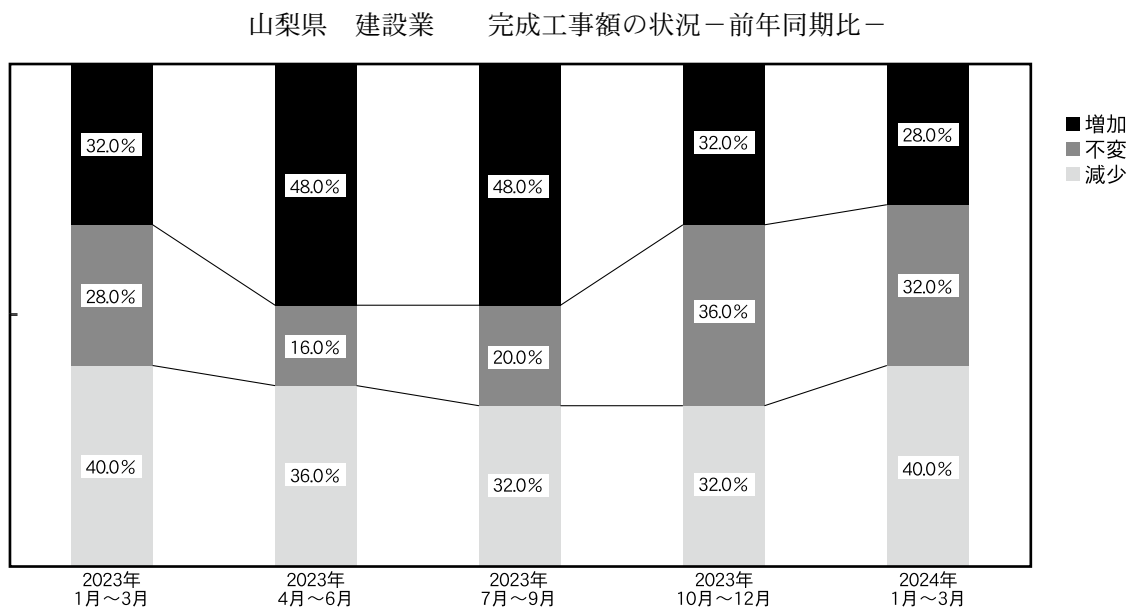
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社））

「増加」と答えた企業の割合は、28.0%（7社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は32.0%（8社）と減少（前期比▲1社）、

「減少」は40.0%（10社）と増加（前期比+2社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

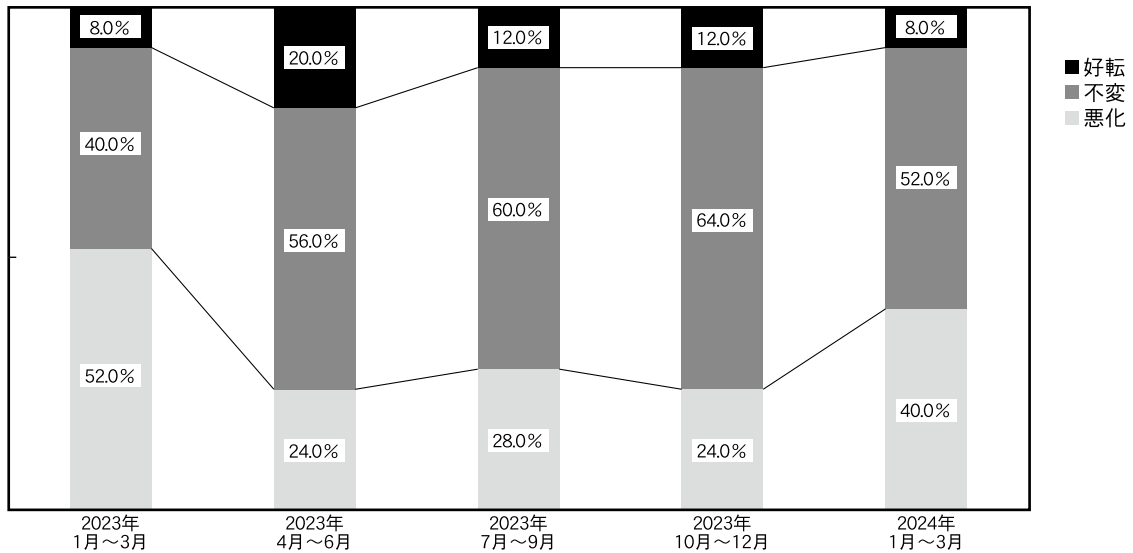
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、8.0%（2社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は52.0%（13社）と減少（前期比▲3社）、

「悪化」は40.0%（10社）と増加（前期比+4社）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

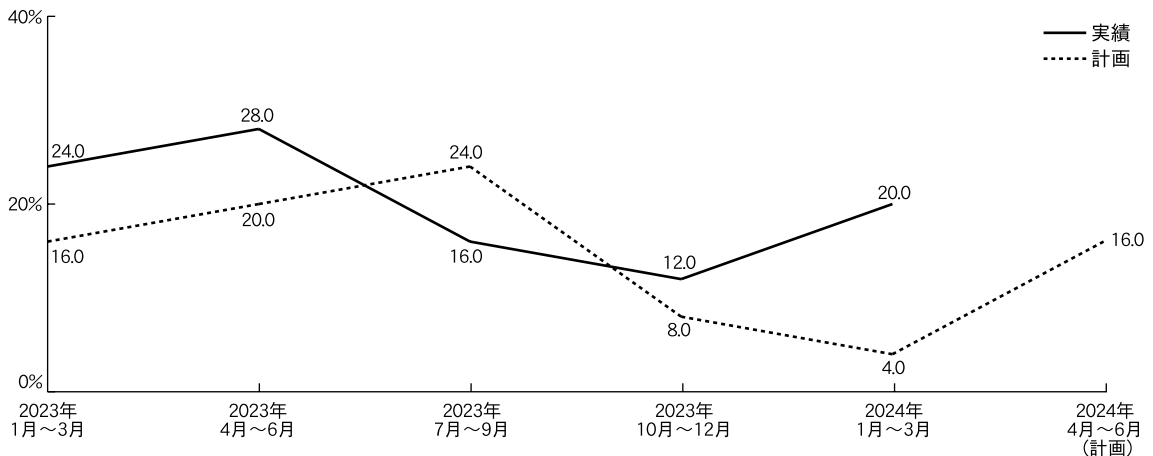


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は20.0%（5社）であった。その設備投資の内容は、「土地」「建設機械」「車両・運搬具」が2件ずつであった。

来期の計画については、16.0%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「OA機器」が1件になる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

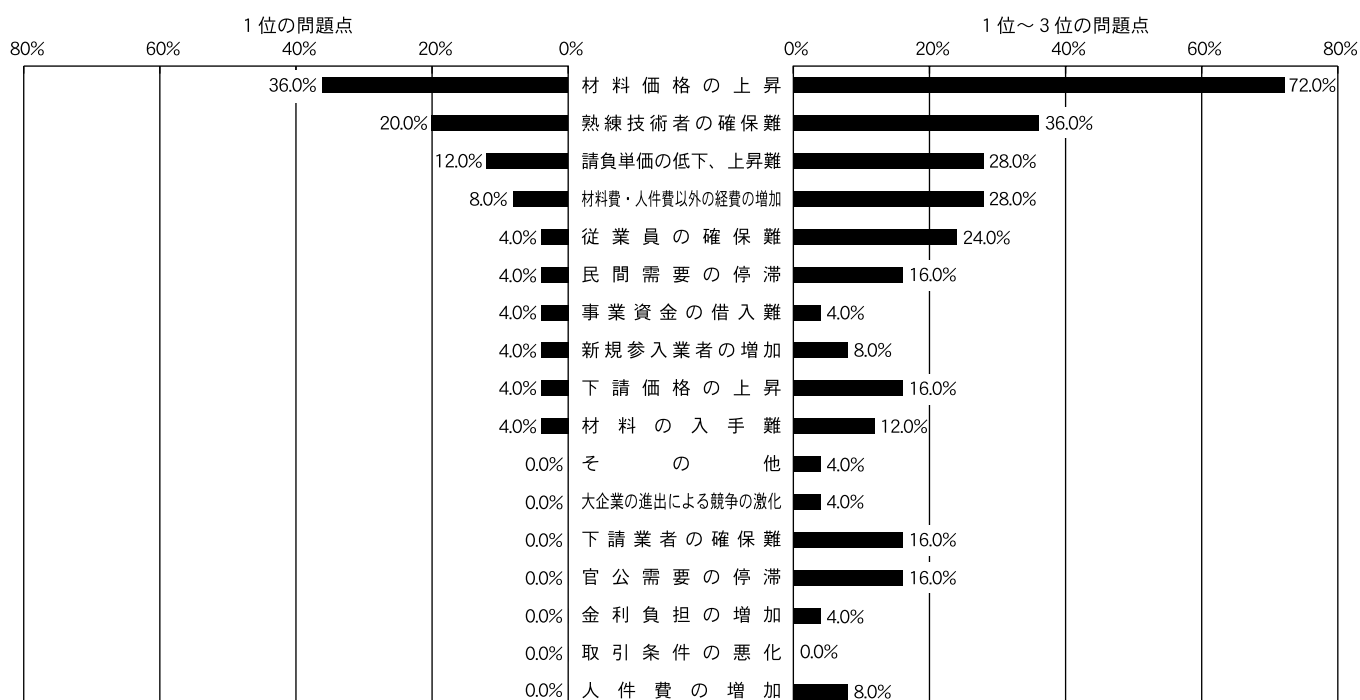
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

過去調査に引き続き「材料価格の上昇」が最も多く挙げられており36.0%（9社）であった。2番目に多かったのも「熟練技術者の確保難」の20.0%（5社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも、1番目に多かったのは「材料価格の上昇」の72.0%（18社）であった。2番目に多かったのも「熟練技術者の確保難」の36.0%（9社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い		企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

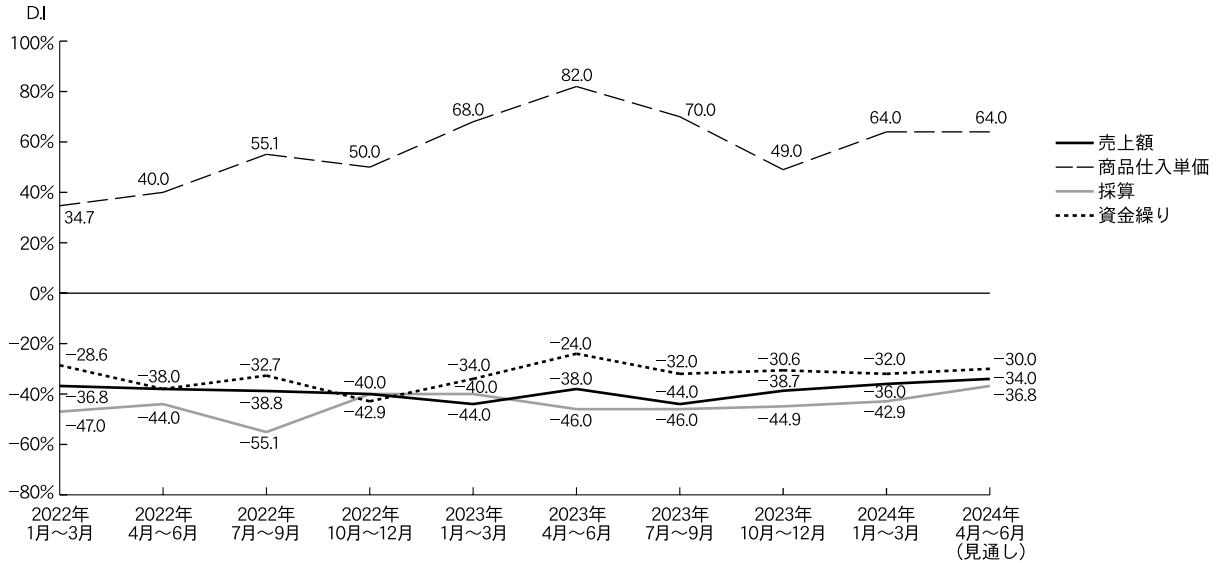
4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲36.0と前期比で2.7ポイント改善し、来期も▲34.0へ改善の見通し。商品仕入単価D Iは、今期64.0と前期比で15.0ポイント上昇（悪化）し、来期も今期同等の見通し。採算D Iは、今期▲42.9と前期比で2.0ポイント改善し、来期も▲36.8へ改善の見通し。資金繰りD Iは、今期▲32.0と前期比で1.4ポイント悪化し、来期は▲30.0へ改善の見通しである。

今期は売上額D I、採算D Iは改善したが、商品仕入単価D I、資金繰りD Iは悪化した。来期は商品仕入単価D Iが今期同等の見通しであるが、他のD Iは全て改善の見通しである。

山梨県 小売業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

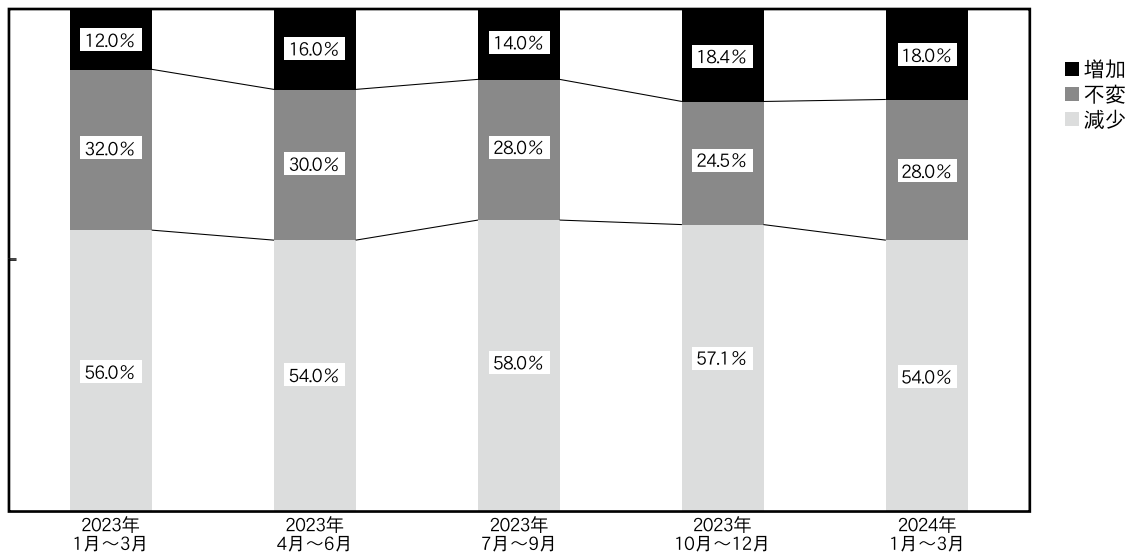
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数50社（前回49社）））

「増加」と答えた企業の割合は、18.0%（9社）と減少（回答企業数は変化なし）している。

「不変」は28.0%（14社）と増加（前期比+2社）、

「減少」は54.0%（27社）と減少（前期比▲1社）している。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数49社））

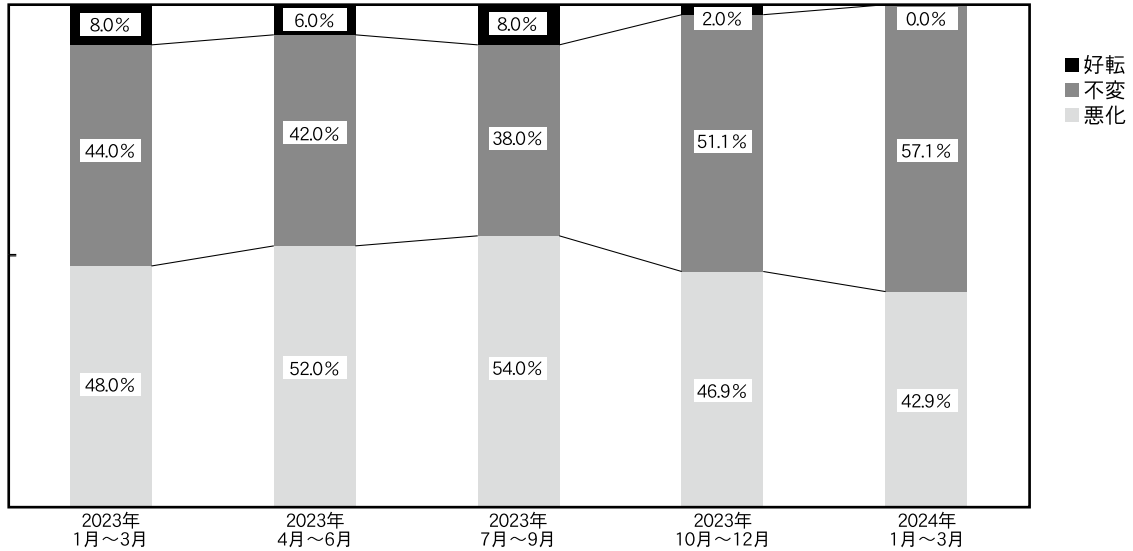
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、0.0%（0社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は57.1%（28社）と増加（前期比+3社）、

「悪化」は42.9%（21社）と減少（前期比▲2社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

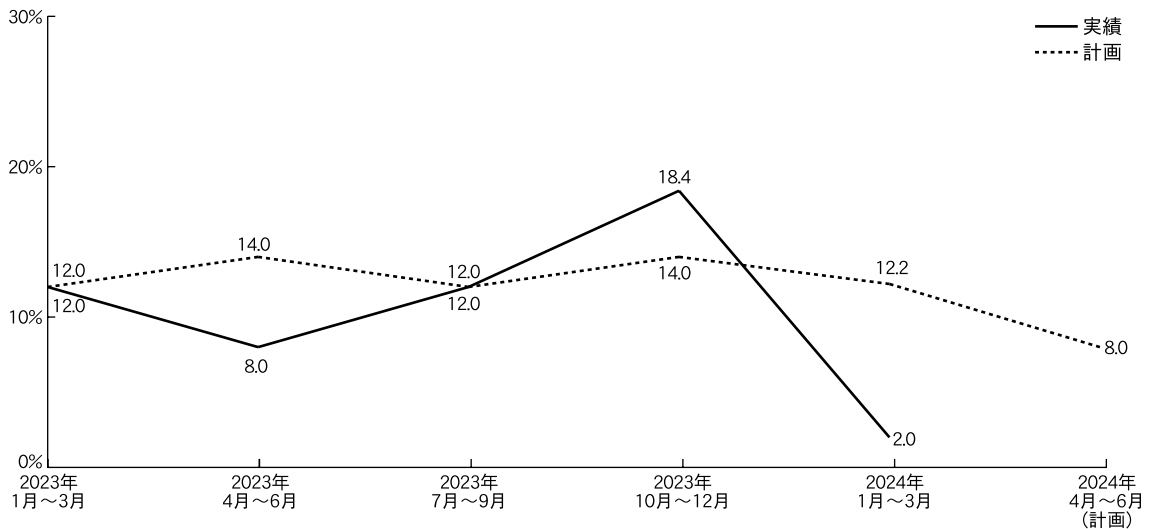


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数50社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は僅か2.0%（1社）であった。その設備投資の内容は、「店舗」「付帯施設」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、8.0%（4社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が3件、「OA機器」が2件、「販売設備」「その他」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

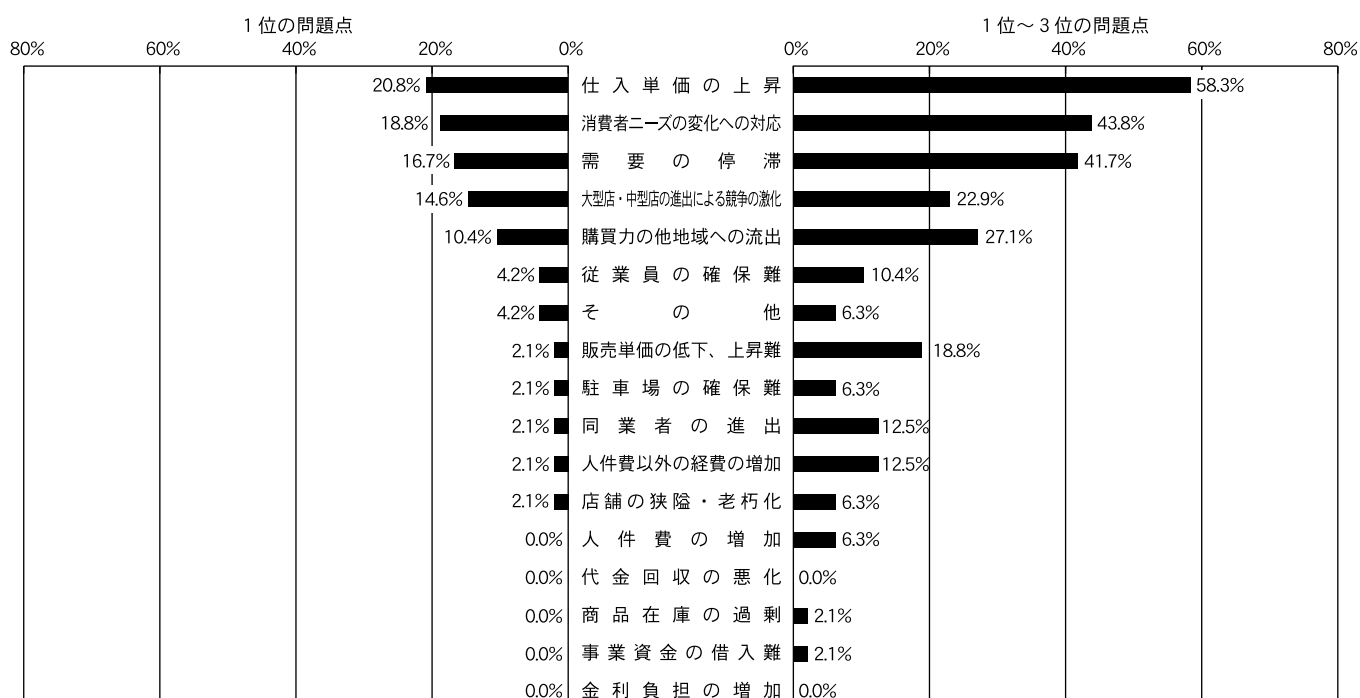
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の20.8%（10社）であり、2番目は「消費者ニーズの変化への対応」の18.8%（9社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の58.3%（28社）であり、2番目は「消費者ニーズの変化への対応」の43.8%（21社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22.0
飲食物品小売業	17	34.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	16	32.0
合計	50	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	12	24.0
合計	50	100.0	50	100.0

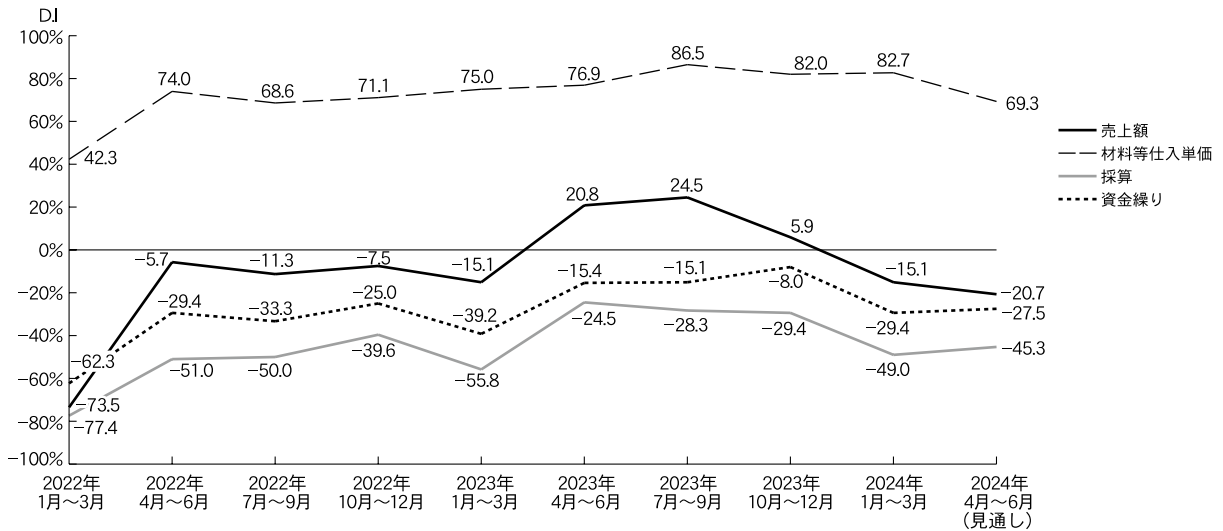
5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲15.1と前期比で21.0ポイント悪化し、来期も▲20.7へ悪化の見通し。材料等仕入単価D Iは、今期82.7と前期比で0.7ポイント僅かに上昇（悪化）したが、来期は69.3へ下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲49.0と前期比で19.6ポイント悪化したが、来期は▲45.3へ改善の見通し。資金繰りD Iも、今期▲29.4と前期比で21.4ポイント悪化したが、来期は▲27.5へ改善の見通しである。

今期は全てのD Iが悪化したが、来期は売上額D I以外の材料等仕入単価・採算・資金繰りD Iは改善に転じる見通しである。

山梨県 サービス業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

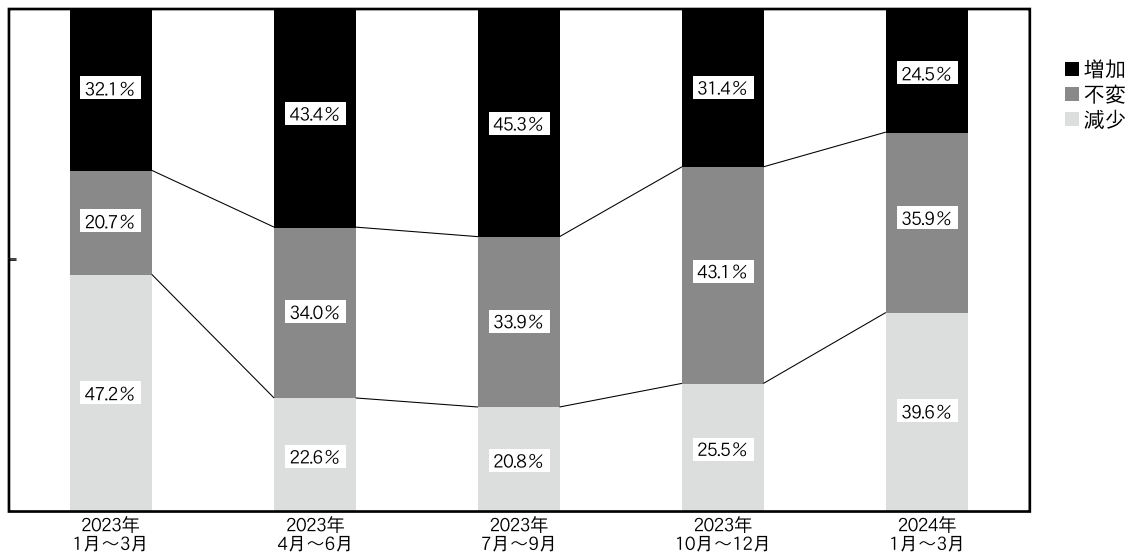
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社（前回51社）））

「増加」と答えた企業の割合は、24.5%（13社）と減少（前期比▲3社）している。

「不変」は35.9%（19社）と減少（前期比▲3社）、

「減少」は39.6%（21社）と増加（前期比+8社）している。

山梨県 サービス業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D I の内容（回答企業数53社（前回51社））

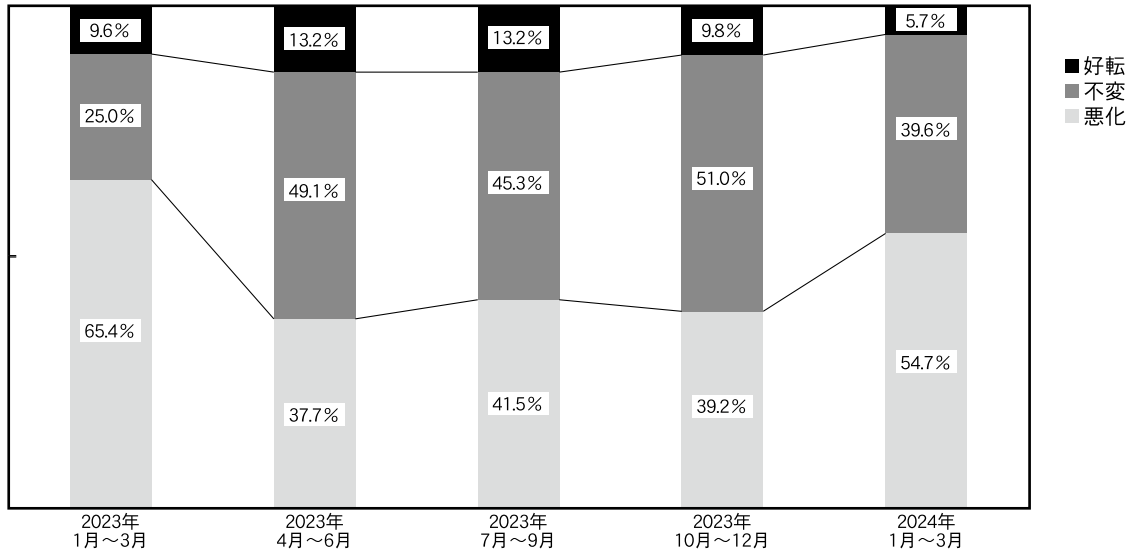
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、5.7%（3社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は39.6%（21社）と減少（前期比▲5社）、

「悪化」は54.7%（29社）と増加（前期比+9社）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

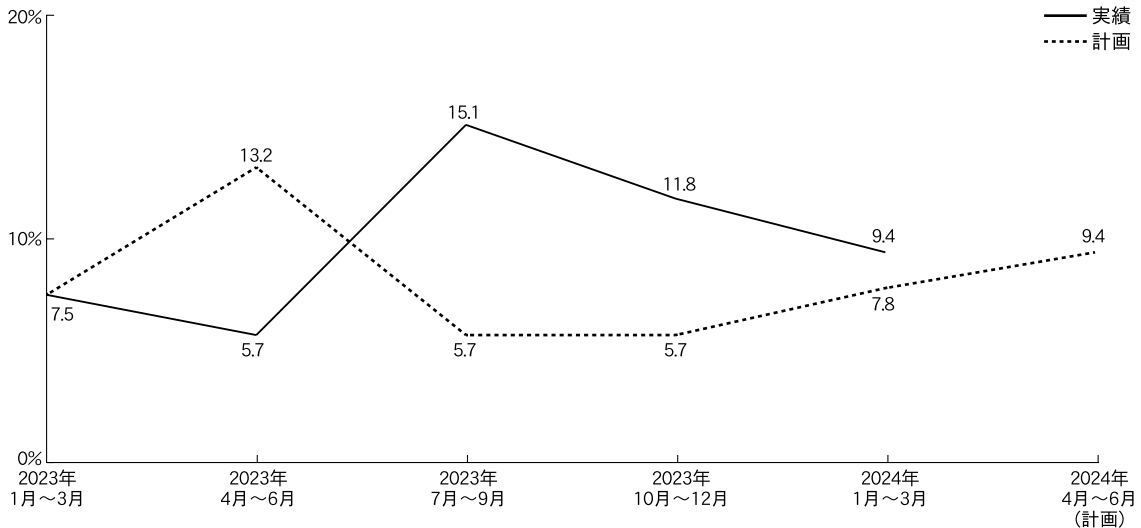


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は9.4%（5社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」「OA機器」が2件ずつ、「サービス」「付帯施設」が1件ずつであった。

来期の計画についても、9.4%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」「付帯施設」が2件ずつ、「建物」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数47社）

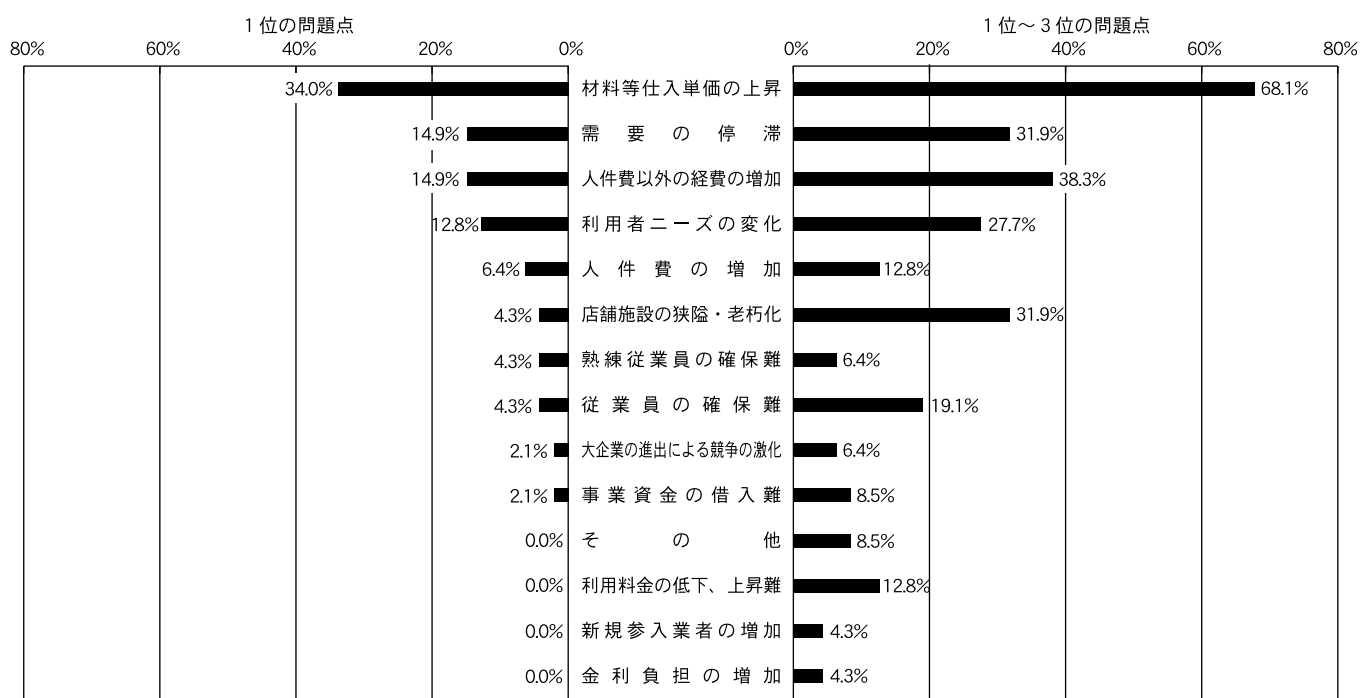
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の34.0%（16社）であり、2番目は「需要の停滞」と「人件費以外の経費の増加」とが同率で14.9%（7社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのも「材料等仕入単価の上昇」の68.1%（32社）であり、2番目は「人件費以外の経費の増加」の38.3%（18社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.5
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.8
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い			
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	47	88.7	40	75.5
3人～5人以下	6	11.3	12	22.6
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
合計	53	100.0	53	100.0